

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	夢門塾ゆうゆう井原		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間のチーム支援体制が非常に整っており、支援前の打合せ、情報共有、記録の徹底、モニタリングなどが体系的に行われています。個別支援計画に基づいた支援が安定して提供されている点は大きな強みです。	視覚支援や構造化環境づくり、クールダウンスペースの確保など、子どもが安心して過ごせる環境づくりを行っています。	地域との交流機会を少しずつ増やし、地域連携を強化していきます。
2	子どもの特性理解に基づく専門的支援ができており、保護者からも「個々に合った支援」「安心して任せられる」と高い評価を得ています。計算や生活スキルなど、実生活に結びつく支援が成果として見えています。	活動プログラムが固定化しないよう、毎月内容を工夫し、自己選択・自己決定の機会を設けています。	振り返り時間を意識的に確保し、支援の質のさらなる向上を図ります。
3	保護者との連携が丁寧で、送迎時やコドモン、面談等を通じて情報共有が行われています。保護者支援や保護者会の実施など、家族支援への意識も高い事業所です。	防災・安全管理に力を入れ、BCP策定、避難訓練、ヒヤリハット共有、虐待防止研修などを継続的に実施しています。	学校との情報共有をデータ化・二重確認するなど、連携体制を強化していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースがやや手狭に感じられる場面があり、特に多目的室や運動室で窮屈さや音の反響を感じるという声があります。	施設構造や利用人数の関係で、物理的なスペースに限界があります。	空間の使い方やグループ分けなどでスペース活用を工夫していきます。
2	支援終了後の振り返り時間が曜日によって確保しにくい場合があります。	支援後の送迎業務や時間的制約により、振り返り時間が取りづらい日があります。	短時間でも振り返りができる仕組みづくりを進めます
3	地域交流の機会が十分とは言えず、他事業所以外との交流に課題があります。	地域交流は安全面や調整面で慎重な対応が必要となります。	子どもの負担に配慮しながら地域交流の機会を検討していきます。